

2017年3月期 決算説明会

2017年 5月 17日

株式会社ジェイテクト

JTEKT Corporation

1. 2017年3月期 業績

2. 2018年3月期 通期業績予想

(質疑応答)

3. 中期経営計画の進捗状況

(質疑応答)

JTEKT Corporation

1-1) 連結損益

円高の影響により大幅な減収(△5.8%)、営業利益も5.5%減益
ただし、利益率は前年並みを維持

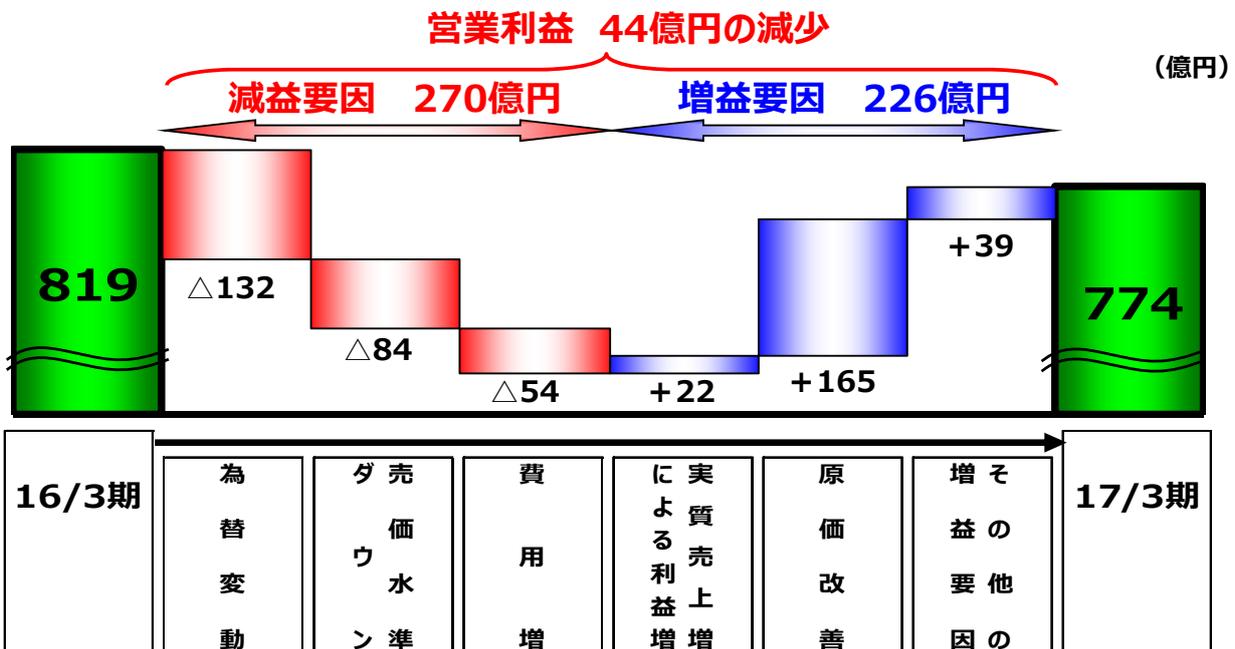
		(億円)			
		16/3期	17/3期	増減額	増減率
売上高		13,999	13,183	△ 816	△ 5.8%
営業利益	(5.9%)	819	774	△ 44	△ 5.5%
経常利益	(5.8%)	812	780	△ 31	△ 3.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	(3.5%)	486	475	△ 11	△ 2.4%
為替レート (4月～3月)		120円/USD 133円/EUR	108円/USD 119円/EUR	12円円高 14円円高	

()は、売上高利益率

		16/3期	17/3期	増減額
配当金	中間	21円	21円	—
	期末	21円	21円	—

1-2) 営業利益の増減分析

売価水準ダウンや費用増の影響を原価改善で補うも、
為替の影響が大きく減益



1-3) 事業別業績【機械器具部品】

為替の影響や軸受の需要減等により減収減益も、
原価改善が進捗し、利益率は前年並みを維持

(億円)

機 械 器 具 部 品	16/3期	17/3期	増減額	増減率
売 上 高	12,351	11,619	△ 731	△ 5.9%
ステアリング	6,783	6,382	△ 400	△ 5.9%
駆 動	1,482	1,482	+ 0	+ 0.0%
軸 受	4,085	3,754	△ 331	△ 8.1%
営 業 利 益 (利益率)	712 (5.8%)	676 (5.8%)	△ 35 —	△ 5.0% —

JTEKT Corporation

1-4) 事業別業績【工作機械 他】

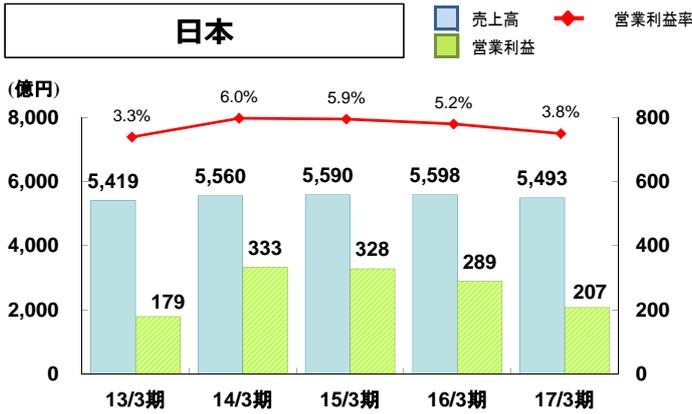
為替の影響及び国内需要の減少により減収減益

(億円)

工 作 機 械 他	16/3期	17/3期	増減額	増減率
売 上 高	1,648	1,563	△ 84	△ 5.1%
工 作 機 械	1,525	1,425	△ 100	△ 6.6%
そ の 他	122	138	+ 15	+ 12.6%
営 業 利 益 (利益率)	108 (6.6%)	97 (6.3%)	△ 10 —	△ 9.9% —

JTEKT Corporation

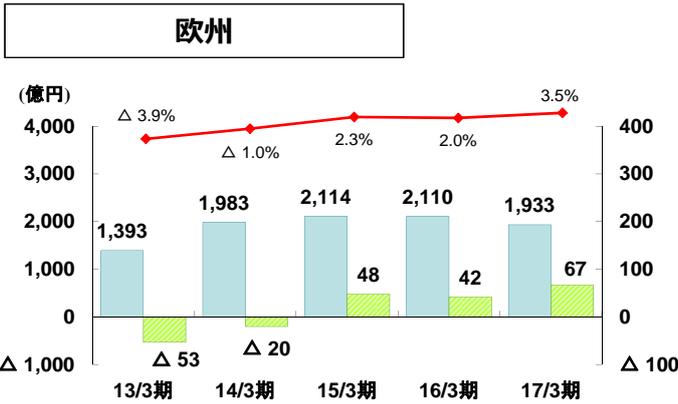
1-5) 法人所在地別業績①



	16/3期	17/3期	増減
売上高	5,598	5,493	△ 104
営業利益	289	207	△ 81
利益率	5.2%	3.8%	-

減収・減益

為替の影響および軸受・工作機械の需要減により減収・減益

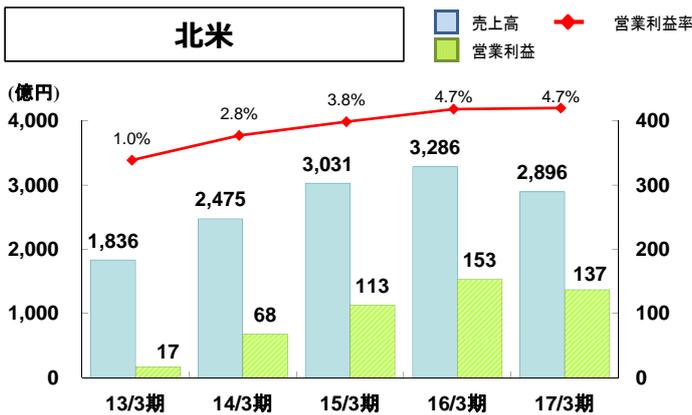


	16/3期	17/3期	増減
売上高	2,110	1,933	△ 176
営業利益	42	67	+ 25
利益率	2.0%	3.5%	-

減収・増益

為替の影響により減収となったが、好調なステアリングと軸受構造改革の効果により増益

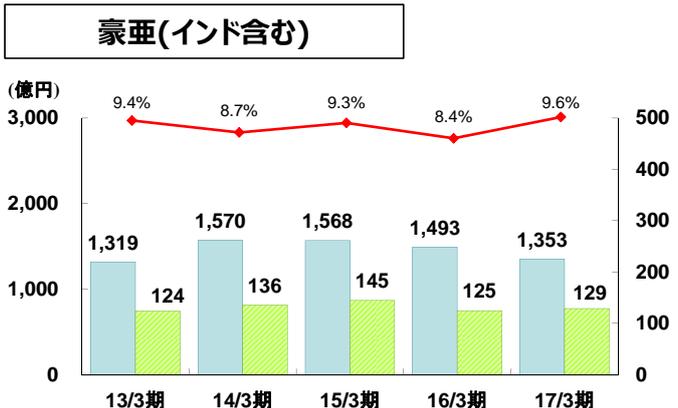
1-6) 法人所在地別業績②



	16/3期	17/3期	増減
売上高	3,286	2,896	△ 389
営業利益	153	137	△ 15
利益率	4.7%	4.7%	-

減収・減益

為替の影響により減収・減益も、ステアリングの原価改善効果により利益率は前年並みを維持

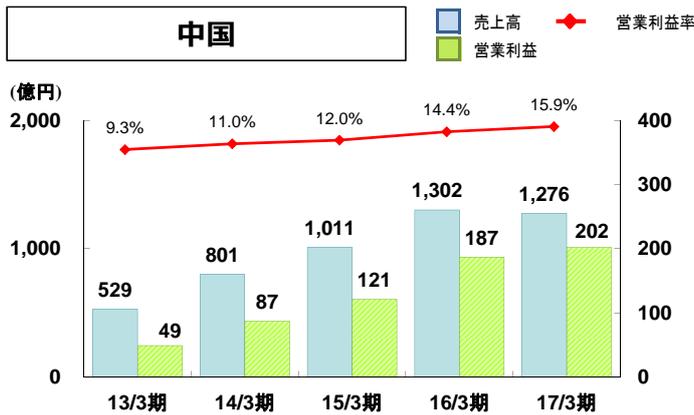


	16/3期	17/3期	増減
売上高	1,493	1,353	△ 139
営業利益	125	129	+ 4
利益率	8.4%	9.6%	-

減収・増益

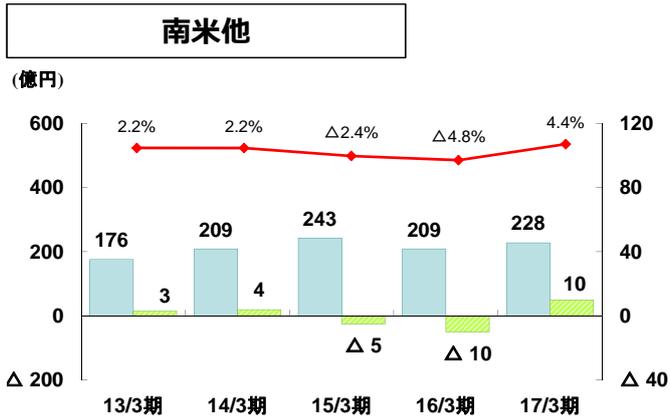
為替の影響により減収も、軸受の収益改善により増益

1-7) 法人所在地別業績③



	16/3期	17/3期	増減
売上高	1,302	1,276	△ 25
営業利益	187	202	+ 14
利益率	14.4%	15.9%	-

減収・増益
為替の影響により減収も、ステアリングの物量増効果に加え、軸受の収益改善により増益



	16/3期	17/3期	増減
売上高	209	228	+ 19
営業利益	△ 10	10	+ 20
利益率	△ 5.0%	4.5%	-

増収・増益
ステアリングの増収効果に加え、売価改善や原価低減により増益

1. 2017年 3月期 業績

2. 2018年 3月期 通期業績予想

(質疑応答)

3. 中期経営計画の進捗状況

(質疑応答)

先進国

- 北米は底堅く推移
- 欧州は、政治情勢に不透明感あるも、緩やかな回復基調を維持

新興国

- 先進国の着実な成長の波及により、緩やかな回復基調

日本

- 内外需要の増加を背景に緩やかな回復基調
- 地政学的リスク等による為替変動を含む経営環境の変化が継続

2-2) 2018年3月期 通期業績予想

為替の影響や費用の増加などにより、減収・減益を見込む

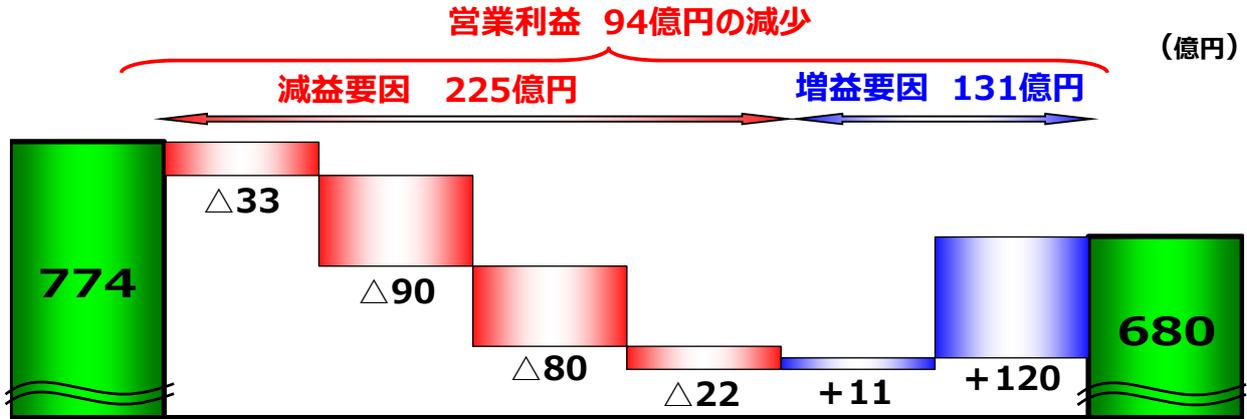
(億円)

	17/3期 通期(実績)	18/3期(予想)			増減額	増減率
		上期	下期	通期		
売上高	13,183	6,400	6,600	13,000	△ 183	△ 1.4%
営業利益	(5.9%) 774	(5.0%) 320	(5.5%) 360	(5.2%) 680	△ 94	△ 12.2%
経常利益	(5.9%) 780	(4.9%) 315	(5.5%) 365	(5.2%) 680	△ 100	△ 12.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	(3.6%) 475	(3.1%) 200	(3.3%) 220	(3.2%) 420	△ 55	△ 11.6%
為替レート (4月～3月)	108円/USD 119円/EUR	105円/USD 115円/EUR	105円/USD 115円/EUR	105円/USD 115円/EUR	3円円高 4円円高	
設備投資額	664	375	425	800	+ 135	+ 20.4%
減価償却費	560	276	294	570	+ 9	+ 1.6%
配当金	42円	21円	21円	42円	—	

() は、売上高利益率

2-3) 営業利益の対前期比増減分析

為替の影響に加え、北米の下流EPS立上げ準備や
技研費(ADAS・IoE対応)等の費用増により減益を見込む



17/3期 (実績)	為替 変動	売 価 水 準	費 用 増	減 益 の 要 因 の	に 実 質 売 上 増 による 利益 増	原 価 改 善	18/3期 (予想)
---------------	----------	------------------	-------------	----------------------------	--	------------------	---------------

1. 2017年 3月期 業績

2. 2018年 3月期 業績予想

(質 疑 応 答)

3. 中期経営計画の進捗状況

(質 疑 応 答)

1. 2017年 3月期 業績

2. 2018年 3月期 業績予想

(質疑応答)

3. 中期経営計画の進捗状況

(質疑応答)

3) 中期経営計画の進捗状況

目次

1. 中期経営計画における各事業戦略

- 1) ステアリング事業
- 2) 駆動事業
- 3) 軸受事業
- 4) 工作機械・メカトロ事業

2. サマリー

- 1) 振り返り
- 2) 経営基盤確立に向けた取組み

1) ステアリング事業戦略

3-1-1) ステアリング事業 中期経営計画

“No.1&Only One”へのこだわりを持ち、顧客への価値を提供し続けることで、市場をリードする存在として進化し続ける

中期目標
ステアリング

自動車用ステアリング
グローバルトップシェアの維持

シェア	25%
-----	-----

重点取組

商品力強化

- ・ADAS(高度運転支援システム)開発推進
- ・機能安全、小型軽量・省燃費対応
- ・競争力ある商品の市場投入(高出力RP/高出力DP)

ビジネスモデル 変革

- ・グローバル商談対応力・フロントローディング活動強化
- ・売価戦略/原価企画力の強化

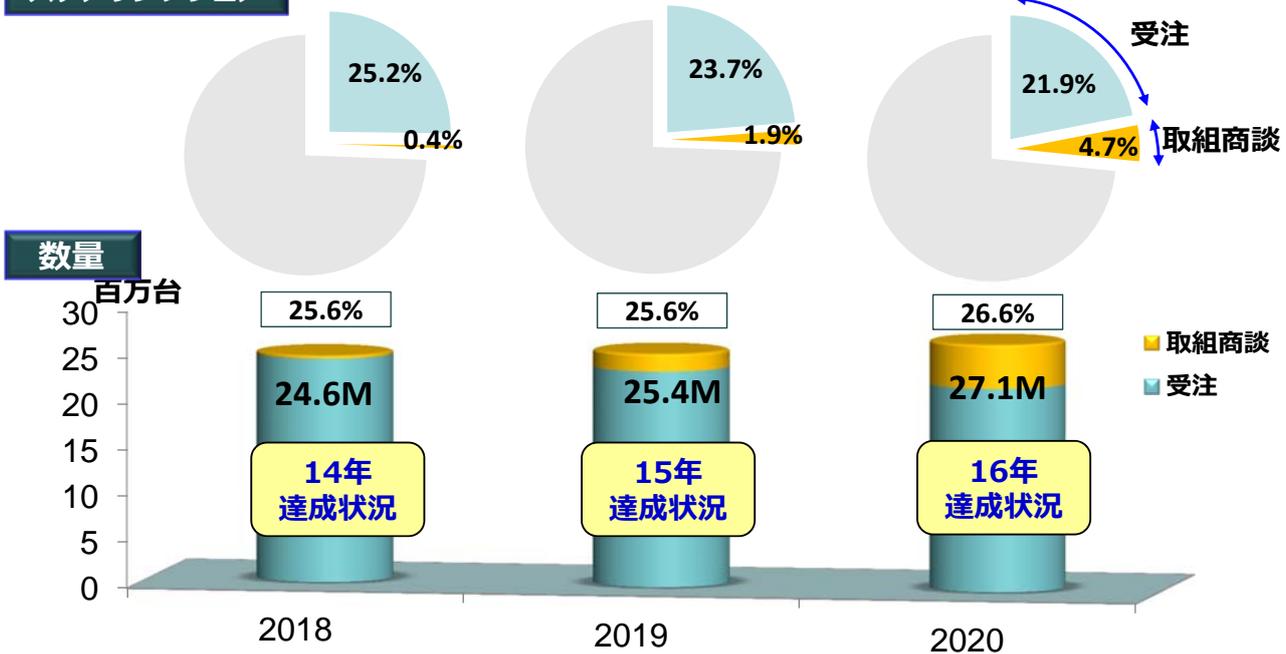
供給体制整備

- ・グローバル供給体制の整備
- ・グローバル生産準備活動強化(専任部門設置)
- ・MCU/コラムの事業展開明確化

3-1-1) JTEKTシェア達成状況

※市場データに基づき当社独自調べ

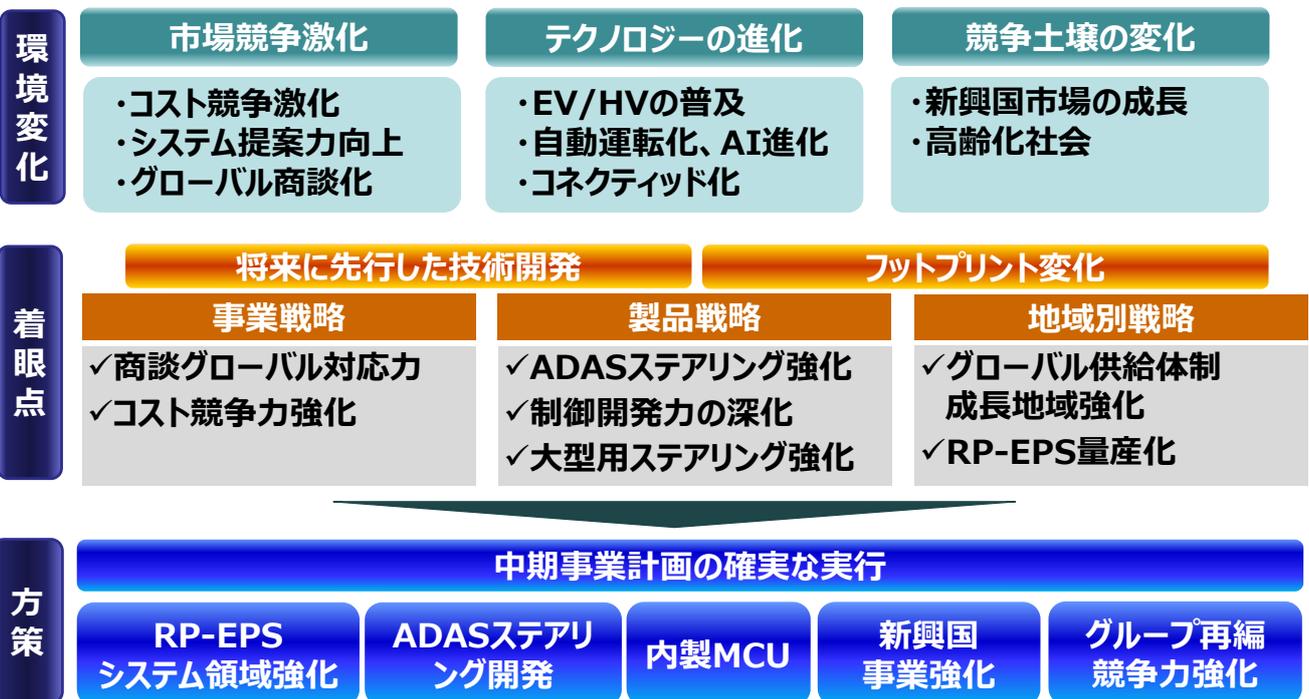
JTEKT ステアリングシェア



継続取組商談の内、多数の大型商談が17年度にソーシング予定
目標シェア達成に向け受注必達で臨む

3-1-1) ステアリング事業 成長戦略

ステアリングトップシェアを維持し続けるとともにADAS等の
ステアリング先進技術のトップランナーとしてNo.1&Only Oneであり続ける



3-1-1) ステアリング 中期事業計画の見通し

2018年度売上・利益見通し

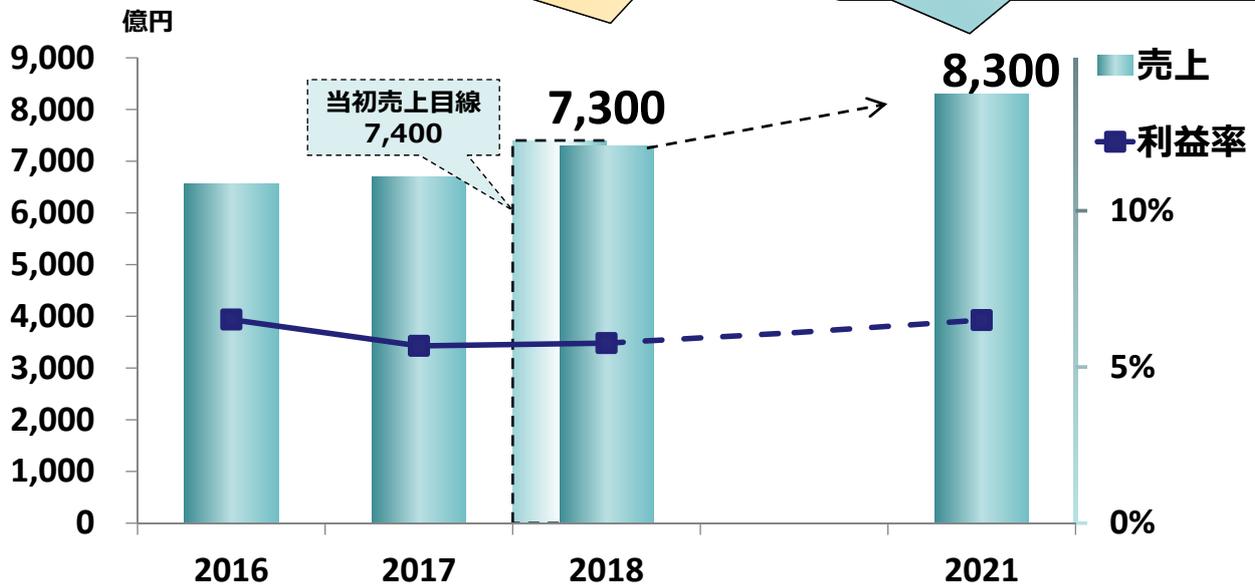
95円/\$, 110円/€, 16円/元

2018年 売上、利益ともに伸ばすも当初目線に届かず

売上 グローバル市場成長鈍化も確実に成長
利益 売上減と市場競争激化により達成厳しい
(固定費増等の影響)

2021年

売上 順調に増加見込み
利益 利益率達成のため
更なる原価低減活動推進



3-1) 中計経営計画の進捗状況

2) 駆動事業戦略

“No.1&Only One”へのこだわりを持ち、顧客への価値を提供し続けることで、市場をリードする存在として進化し続ける

中期目標
ドライブライン

ドライブラインシステムサプライヤーとして
世界のリーディングカンパニーへ飛躍

重点取組

ビジネスモデル
変革

- ・グローバル商談対応力・販売促進、フロントローディング活動強化
- ・売価戦略/原価企画力の強化
- ・ドライブシャフト 事業基盤強化
(収益向上・プロペラ用等速ジョイント継続強化)
- ・**駆動システム対応力強化**
- ・他社協継続推進

商品力強化
事業戦略

- ・小型化・低コスト・高機能化
- ・ユニット化・モジュール化 (油圧AWD用デバイス開発加速)
- ・新分野商品開発 (油圧事業領域拡大・FCV・AWD用IWM)

グローバル供給
体制

- ・JTEKT既存拠点を徹底活用したグローバル生産構え再構築

AWDや油圧など強みを活かした特徴あるシステムサプライヤーとして
駆動事業としてNo.1&Only Oneを目指す。

環境
変化

市場競争激化

- ・コスト競争激化
- ・システム提案力向上
- ・グローバル商談化

テクノロジーの進化

- ・EV/HVの普及
- ・自動運転化、AI進化
- ・コネクティッド化

競争土壌の変化

- ・新興国市場の成長
- ・システム提案力

着
眼
点

事業戦略

- ✓商談グローバル対応力
- ✓コスト競争力強化
- ✓集中と選択
- ✓事業部を超えたシナジー

製品戦略

- ✓システム開発力強化
- ✓AWD制御開発力の深化
- ✓将来への付加価値創造
- ✓電動車両への適合

地域別戦略

- ✓グローバル供給体制
- ✓プロダクトミックス変化

方
策

中期事業計画
の確実な実行

駆動システムサプライヤーとしての提案力向上

AWDシステム強化

油圧システム強化

ドライブライン
領域の深化

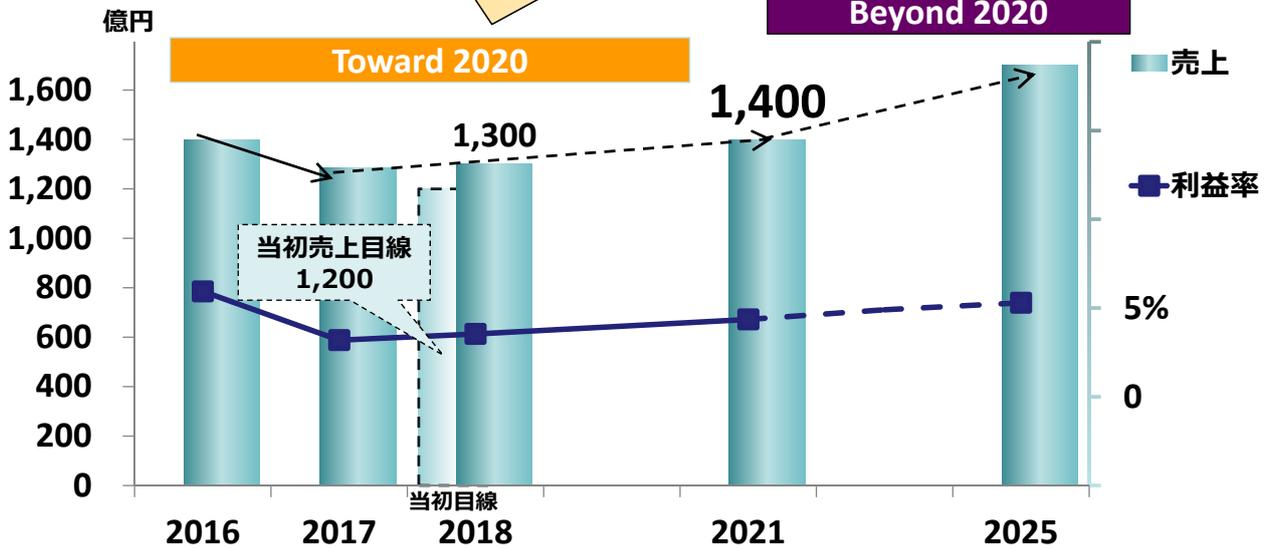
3-1-2) 駆動事業 中期事業計画の見通し

2018年度売上・利益見通し

95円/\$,110円/€、16円/円

2016年～2020年まで厳しい環境が続く
 売上 ドライブシャフト仕事量減
 北米電子制御AWD次世代対応遅れ
 利益・売上減による利益ダウン

2020年以降は右肩上がりの
 リーディングカンパニーへの飛躍
 を狙う



3-1) 中計経営計画の進捗状況

3) 軸受事業戦略

- ※TRB(テーパローラベアリング)
- HUB(ハブユニット) ...B-HUB(ボールハブユニット)/T-HUB(テーパハブユニット)
- NRB(ニードルローラベアリング)
- SBB(シングルボールベアリング)
- LFT(Low Friction Torque)
- EXSEV(EXtreme Special EnViroment)

軸受事業の長期ビジョン

継続して価値を創造し、お客様へ感動を与え賞賛される事業
～Koyoブランドを世界のTOPブランドへ～

目 指 す 姿	事業全体	<ul style="list-style-type: none"> ・量から質への転換により高収益事業へ ・筋肉質で競争に勝てる体質づくり (体質強化で足もと固め～成長へ)
	自動車軸受	<ul style="list-style-type: none"> ・フロントローディング活動の強化 ・変化を先読みしたタイムリーな高付加価値商品の投入 ・シェアトップ2ポジションの維持
	産機市販軸受	<ul style="list-style-type: none"> ・期待値を超えるソリューション提案型ビジネスの展開 ・No.1 & Only One商品の創出、新技術・サービスの提供 ・OEから補修市場までライフサイクルでの価値、サービスの提供

業種別・品種別戦略と地域戦略による高収益事業への転換

環境変化	市場競争激化	テクノロジーの進化	競争土壌の変化
	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト競争激化 ・グローバル対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・高精度加工技術 ・IoT、インダストリー4 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化 ・労働人口の減少
着眼点	事業戦略	製品戦略	地域別戦略
	<ul style="list-style-type: none"> ✓コスト競争力強化 ✓開発・生産・販売強化 ✓ものづくり改革 ✓ビジネスモデルの転換 	<ul style="list-style-type: none"> ✓低トルク技術の深化 ✓小型・軽量化技術の深化 ✓材料開発～製品開発 ✓電動化・新領域への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ✓基盤開発体制強化 ✓グローバル生産体制再構築 ✓グローバル販売網強化 ✓グローバル開発体制強化

中期事業計画の確実な実行

方策	構造改革 ＜地域別再編＞	生産力強化 ＜自動化、小ロット化＞	営業力強化 ＜OE、市販＞	開発力強化 ＜商品、サービス＞
----	-----------------	----------------------	------------------	--------------------

構造改革の取組み内容

- 1) 国内事業再編（収益基盤構築）
- 2) 欧州NRBリバイバルプランの完結
- 3) アジア<インドネシア/インド> 構造改革による経営安定化
- 4) 北米/イギリス/中国 黒字化に向けた抜本改革の実行

◆成果と課題

	項目	状況	評価
1)	国内事業	収益性が課題 収益力向上に向けた取組みを推進	×
2)	欧州NRB	進捗遅れあるも、18年度黒字化の目途付け済	△
3)	アジア	原低活動推進⇒17年度黒字化	○
4)	北米	HUB能力増強完了、TRB採算改善取組中	△
	イギリス	HUB専用工場化完了⇒16年度黒字化達成	○
	中国SBB	サイズ別棲み分け完了⇒黒字体質定着	○

次頁で詳細説明

◆国内事業再編の課題と対応



- ・国内生産体制再編完了も、計画外費用発生～挽回対策推進中
- ・競争力向上に向けた取組みを加速

工場	課題と要因		対策
亀山	✓計画外費用増	<ul style="list-style-type: none"> ➢IoEの追加導入 ➢高スペックライン導入 ➢整備費・物流費等 	<ul style="list-style-type: none"> ➢IoE、高スペックライン活用 ➢グローバルモデル工場へ
国分	✓抜本改革への取組み遅れ	<ul style="list-style-type: none"> ➢産機市場低迷への対策を優先 	<ul style="list-style-type: none"> ➢大部屋活動強化 ➢市販体制強化
香川	✓計画外費用増	<ul style="list-style-type: none"> ➢既存設備生産性低下 ➢設備立上げ遅れ 	<ul style="list-style-type: none"> ➢設備保全強化

3-1-3) 営業力強化

- ◆OE：面当り営業によるF/L活動、産機重点顧客活動の継続推進
- ◆市販強化

販売網の強化

- 【日本】 二次代理店開拓・育成
- 【北米】 最大手機械商社との取引拡大
- 【欧州】 新規代理店の開拓

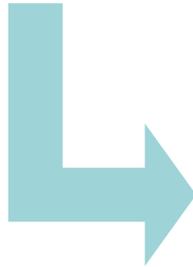
お客様のご要求に応える 品揃え・物流の強化

- ・自動車市販商品の拡大
- ・中央在庫を更に拡充しグローバルに活用
- ・倉庫・物流網の強化

市販営業人材の育成

- ・OE営業とは違う教育・育成プログラム構築
- ・多能営業の育成 ⇒ お客様対応力強化

2021年度
グローバル市販販売
40%アップ
(2016年度比)



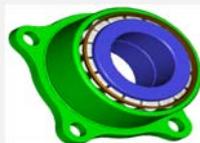
3-1-3) 成長シナリオ 品種別戦略実現

◆TRB

- ・つくり改革/地域最適仕様
- ・低トルクとコンパクト化の追求



超低トルクTRB
LFT-IV



ピニオンユニット

◆HUB

- ・B-HUB競争力向上/T-HUB強化
- ・亀山モデル工場化～海外展開
- ・SBW、ADASへの貢献



センシングHUB



亀山工場 第2工場

◆NRB

- ・グローバル3極開発体制の強み活用
 - ・国内生産・開発体制確立
- 宇都宮機器 新工場用地取得 ('16/12)



提供: 栃木県企業立地促進協議会

清原工業団地



提供: 横松設計事務所

新工場完成予想図

◆SBB

- ・グローバル生産体制再構築
- ・高機能商品の投入



高速回転対応SBB



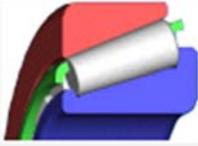
アンチクリープ軸受

3-1-3) 成長シナリオ 業種別戦略実現

◆農機・建機

- ・苛酷化する使用条件下での長寿命化

適用 長寿命新材料を
中大型サイズへ



長寿命TRB

国分再編との連携



大形軸受技術開発センター

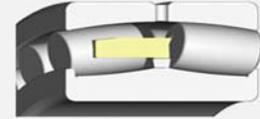
国分工場



開発・生産・サービス体制強化

◆風力・鉄鋼

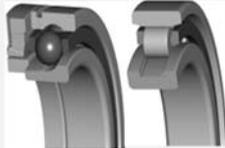
- ・高機能化 (長寿命、低トルク)
- ・モーター技術開発



風力主軸用
高機能自動調心ころ軸受

◆工作機械

- ・低昇温対応 (次世代ハイアビリー)
- ・低環境負荷、ユニット化技術 (スマートグ軸受)



次世代ハイアビリーシリーズの開発



◆EXSEV(特殊環境)

- ・特殊環境向け強化 (半導体、医療機器等)



新クリーンプロ軸受



X線管用軸受

3-1-3) 軸受事業 中期事業計画の見通し

2018年度売上・利益見通し

95円/\$,110円/€、16円/円

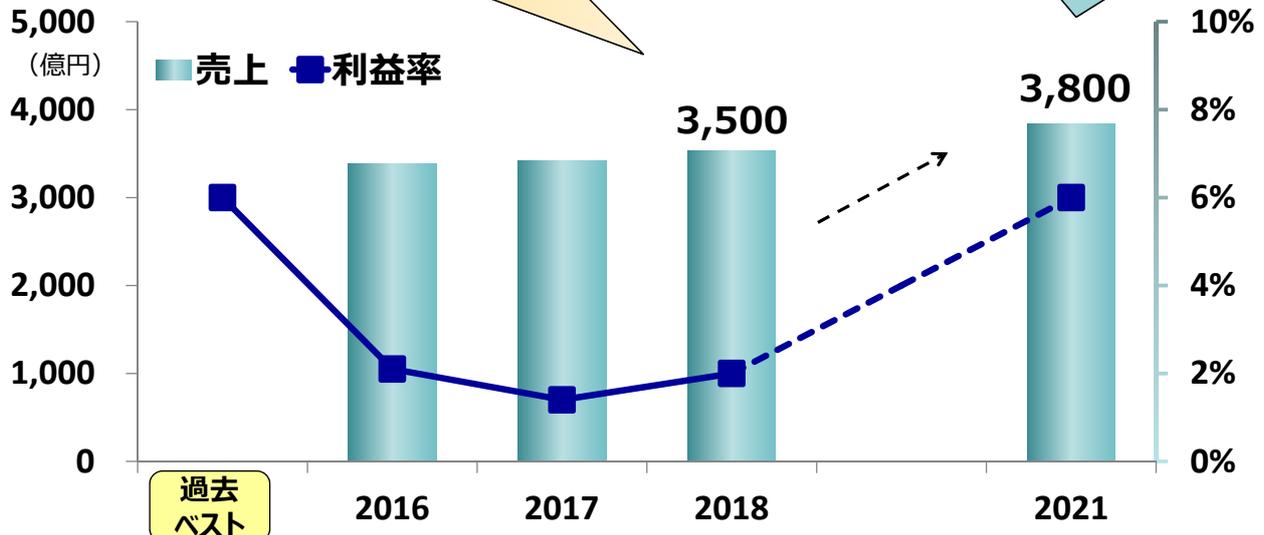
当初目標値に対し、環境変化等により目標を修正

<重点課題対応>

重点施策を実行し、収益性を回復

<業種別・品種別戦略の実現>

業種別・品種別戦略の実現により、利益を上積み



Key of your operation Koyo

3-1) 中計経営計画の進捗状況

4) 工作機械・メカトロ事業戦略

- ・お客様から信頼される**真の総合生産ラインビルダー**
- ・モノづくりすべてのフェーズでバリューを提供

目指す姿

商品力強化

- ・研削盤をより磐石に特研グローバル No1
- ・マシニングセンタは中大型・高剛性機へ注力
- ・ギヤ加工領域はギヤスカイピングセンタで Only One

ビジネスモデル
変革

- ・「新台中心」から 3つのつながる事業へ
【バリューチェーン】【工程・技術】【商品力】
- ・「モノづくり」だけでなく「コトづくり」も
- ・Industrie 4.0、スマートファクトリー化への対応

供給体制

- ・海外生産着手、及び販売・サービス体制の整備継続

モノづくりすべてのフェーズでバリューを提供できる
IoEを活用した総合生産ラインビルダーの地位を確立

環境変化

市場競争激化・競争土壌の変化

- ・コスト競争激化（付加価値勝負）
- ・環境保護を背景としたモビリティの変化
- ・内需停滞

テクノロジーの進化

- ・除去加工 → 付加加工
- ・材料変化（鉄 → アルミ → チタン等）
- ・IoT、スマートファクトリーの普及、進化

着眼点

事業戦略

- ✓自動車市場の変化への柔軟な対応
- ✓非自動車市場への対応強化

製品戦略

- ✓単体 → システムへ
モノ（ハード）→ コト（ソフト）へ
- ✓グループ保有技術で加工工程の囲い込み

地域別戦略

- ✓グローバル販売・生産・サービス体制強化
- ✓地域規模に応じた構え

方策

ラインビルダーとしての提案力向上

先を見据えた商品開発

社内工場・お客様へのIoT化・スマートファクトリー化

システムエンジニアリング力強化

グループ連携強化

■ 研削盤

客先ワークの高度化、
生産性向上ニーズへの対応

クランクシャフト研削盤の
モデルチェンジ



[GF50MH-70T]

拡大が想定される
ロボット市場への対応

ロボット減速機用
小型偏心シャフト用研削盤の開発

■ ギヤスカイピングセンタ



GS200H5
小型量産部品
自動車部品

2017年5月 販売開始

モノだけではなく人もつなげるからIoE



モノがつながる



人がつながる

見える化して
改善する

現場力、改善力が向上する
設備と共に人も進化する

人と設備が協調し、人の知恵が働く、
人が主役のスマートファクトリー



現場の困りごとを解決するIoT

データ・情報

IT
Information Technology

OT
Operational Technology

現場運営

IoT

現場とITの融合

3つのIoE

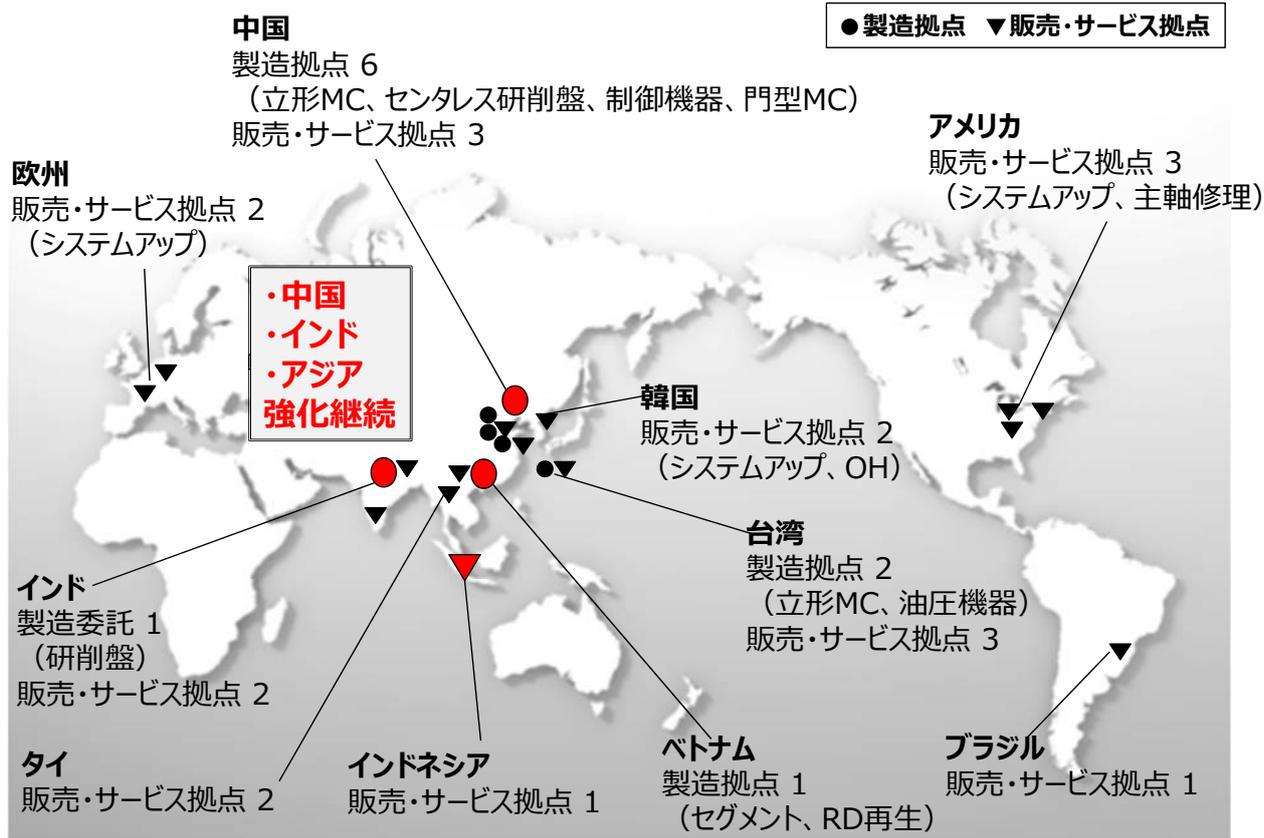
1. **品質のIoE** :
製品品質の兆候管理ができる
2. **保全のIoE** :
寿命・異常の兆候管理ができる
3. **生産のIoE** :
人も含めた生産性向上ができる

IoE 導入ステップ

STEP1 つながるソリューション ～設備・モノをつなげる～	STEP2 見える化ソリューション ～人と情報をつなげる～	STEP3 バリューソリューション ～データ収集・解析、改善し価値を向上させる～	STEP4 チェーンソリューション ～範囲を広げ、さらにつなげる～
EtherCAT, PROFINET等 各種ネットワーク対応  TOYOPUC-Plus JTEKT-LINK	大型ディスプレイ、タブレット他 各種モニタ対応  TOYOPUC-Hawkeye TOYOPUC-Touch	MTconnect, FOCUS II 対応  TOYOPUC-AAA JTEKT-LINK	Mindsphere対応 
<ul style="list-style-type: none"> 既存の設備につながる シンプルなI/O接続も可能 	<ul style="list-style-type: none"> TPSの思想を持った、改善ができる「見える化」 	<ul style="list-style-type: none"> お客様独自でデータ収集・蓄積・表示・解析・判定ができる、オープンプラットフォーム構成のエッジ型解析モジュール 	<ul style="list-style-type: none"> お客様の工場間、海外工場間、サプライヤーをつなぐ可能性を追求
新旧設備、制御機器メーカーを問わず「つないで」TPSの思想を持った「見える化」をします		'17春より 工作機械全機種標準搭載	お客様のご指定のクラウドに順次対応

■グループ保有の固有技術でお客様の工場をサポート



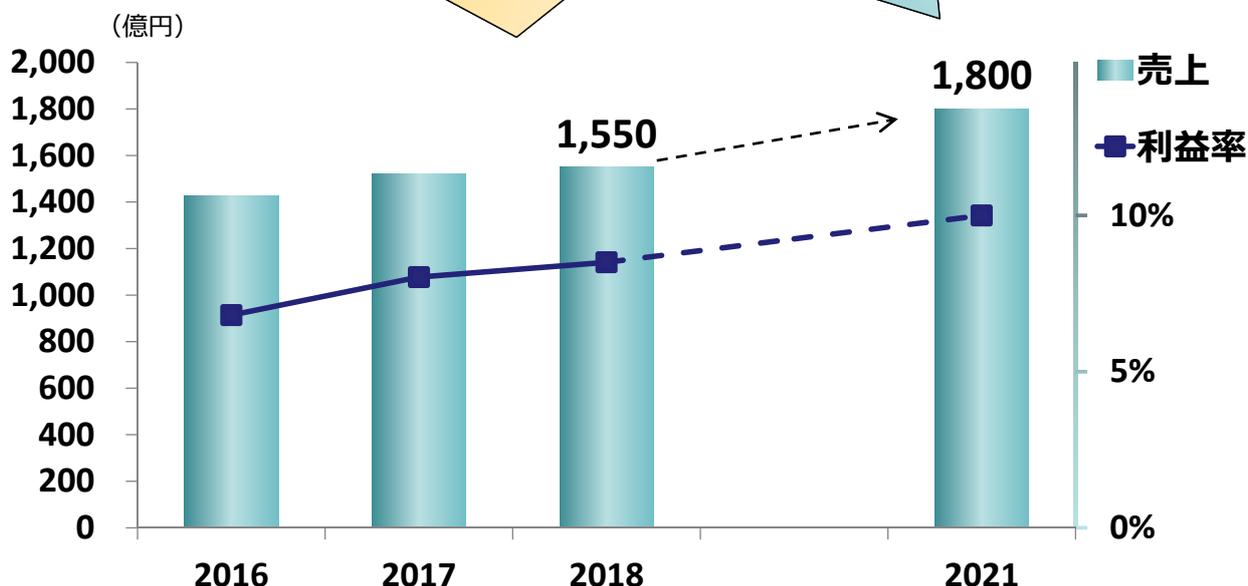


2018年度売上・利益見通し

95円/\$, 110円/€, 16円/元

2018年目標値に対し、環境変化等により
中期計画の目標修正

事業構造変革の推進



2) サマリー

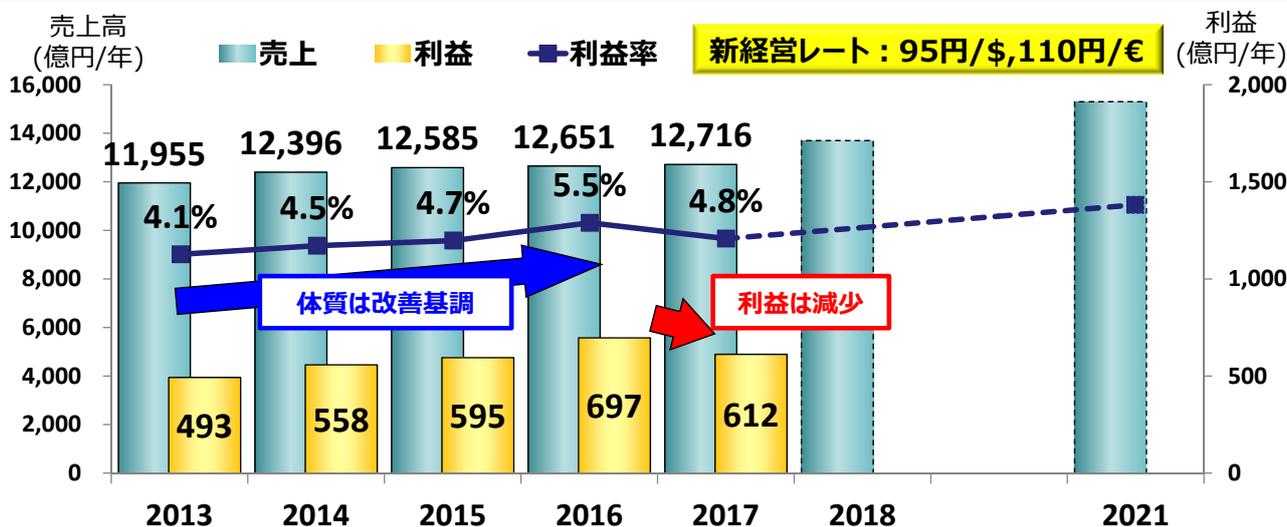
(1) 振り返り

損益の推移 (経営レート)

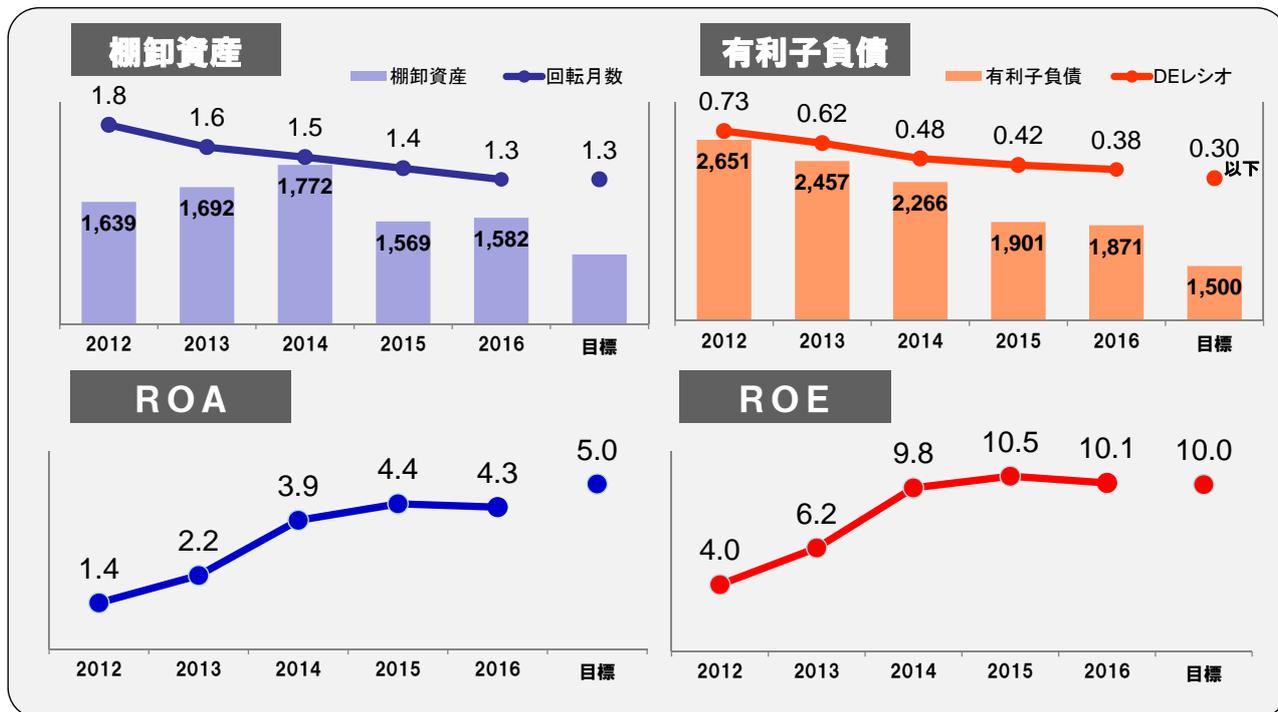
連結経営指標

3-2-1) 振り返り – 損益の推移 (経営レート)

為替の影響を除くと、16年度までは体質は改善基調だが、
17年度は、①単体の収益性低下、②北米下流EPS立ち上げ準備、
③ADAS・IoE等の将来への弾込め費用等により、減益の見込み
→下流EPSの事業安定・将来投資の効果回収により再び成長路線へ



独禁法関連損失等により、ROA・ROEは悪化



JTEKT Corporation

(2) 経営基盤確立に向けた取り組み

バランスシートのスリム化

働き方改革

- ・技能員の働き方高度化
- ・間接部門の効率化(業務改革)

IT高度化の取組み

JTEKT Corporation

3年間(14-16年度)で総額△200億円以上の処理を実施
⇒ 再発防止の徹底・不要資産を溜めないしくみ作りを推進中

【主な取組み】

- ・BS管理指標導入による運転資金圧縮 (CCC管理、事業別BS ほか)
- ・不要な棚卸資産/固定資産の洗出し
- ・滞留債権の解消
- ・グループ内資金の有効活用

【棚卸資産】 △110億円

2014/3月末	2017/3月末
1,692億円 (1.6ヶ月)	1,582億円 (1.3ヶ月)

【有利子負債】 △586億円

2014/3月末	2017/3月末
2,457億円 (D/Eレシオ0.62)	1,871億円 (D/Eレシオ0.38)

今後のM&A戦略や新規開発への投資資金を創出・確保

2025年クライシス (類を見ない超高齢化社会の到来)

- ◆ 今後10年間で、日本の人口は600万人~700万人減少
- ◆ 65歳以上の人口は3,500万人を突破 (人口の約3割)

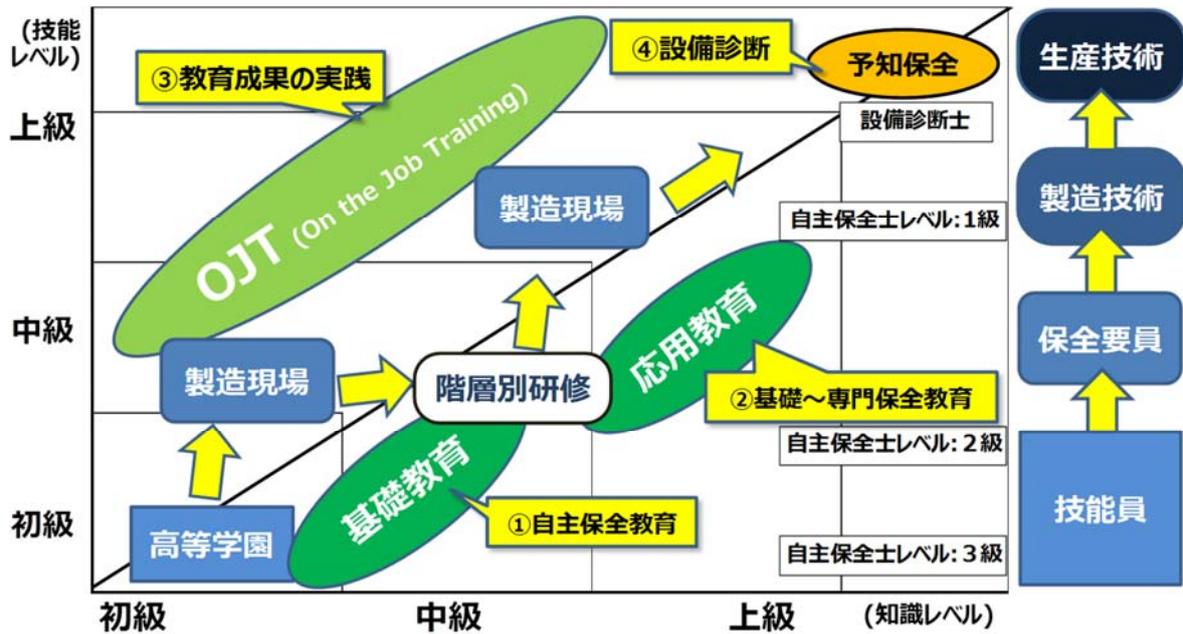
働き方の高度化

- ① 学園プログラムの見直し
- ② 技能員のポテンシャル向上
 - ・製造オペレーター ⇒ 保全要員
 - ・製技 ⇒ 生技 ⇒ 生技開発
- ③ 間接部門の効率アップ

ダイバーシティ促進

- ① 育児・介護・障がい者・シニアの支援
- ② イクメン育成
- ③ ICT拡大
(Intra Company Trainee)
- ④ グローバル人事制度整備

新入社員受入れ(高等学園)以降、カリキュラムに沿った保全者育成



労働人口減少→製造ライン自動化・無人化→技能員の高度化

目的

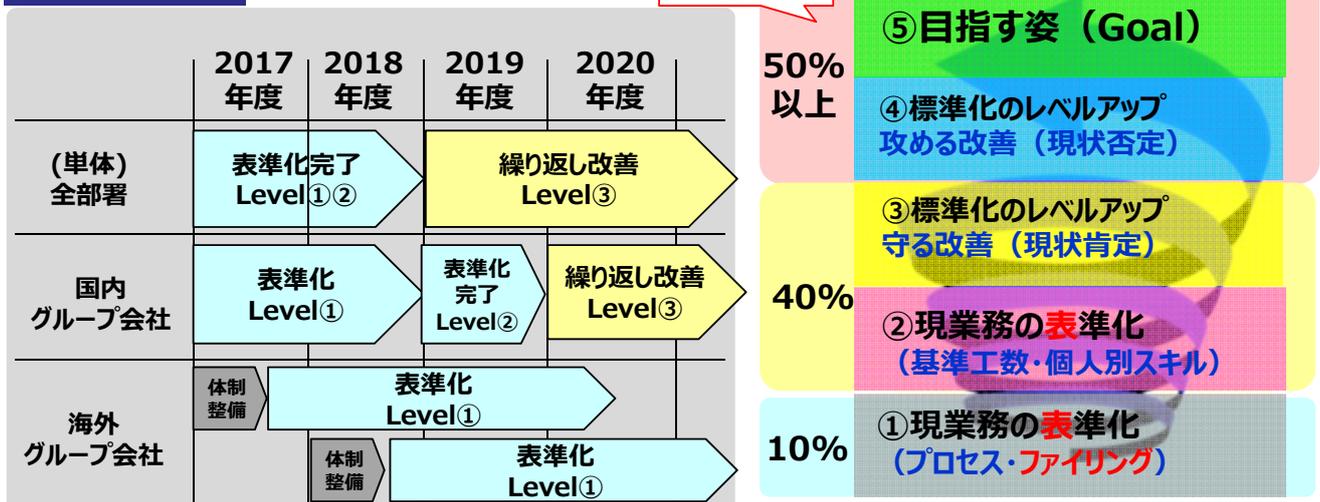
- ・JTEKTグループ全間接部門で日常業務の標準化のレベルアップを行い **小さな本社・小さな間接部門を実現!!**
- ・間接部門の働き方改革を下支えし、**JTEKTグループの総合力をアップ!!**

推進計画

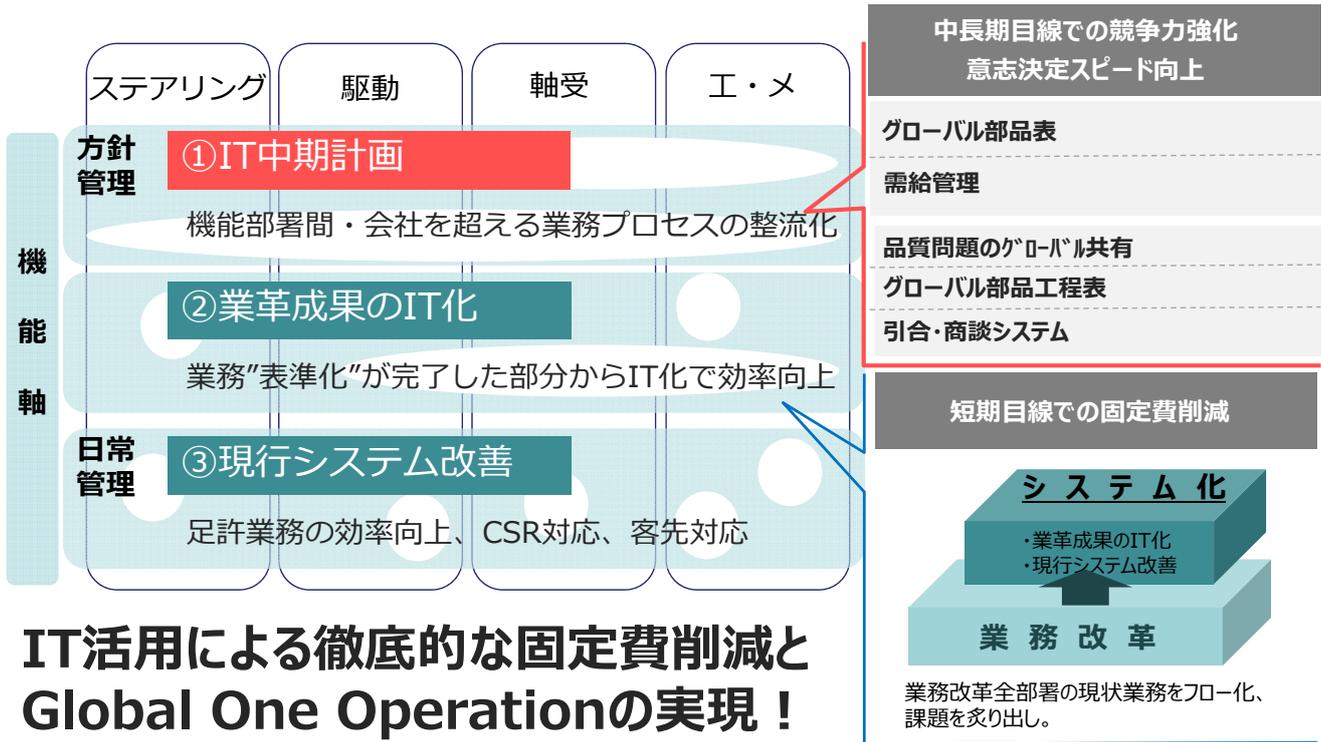
※国内・海外グループ会社へ横展を拡大

工数削減
目標

<業務改革のプロセス>

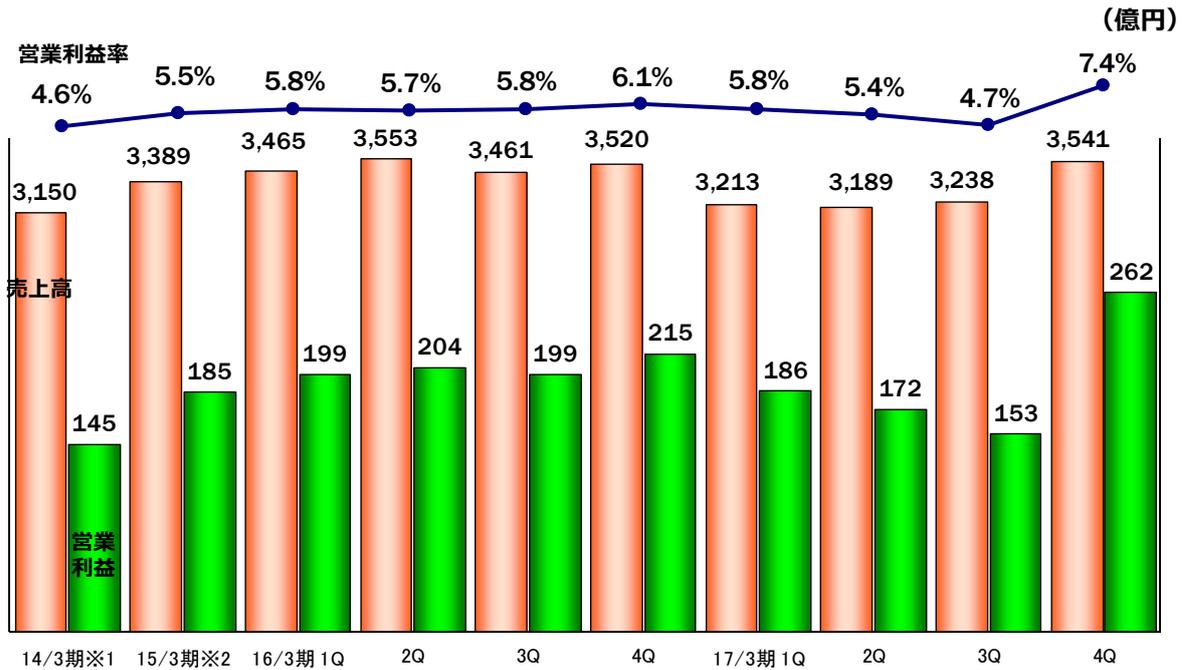


中期・短期の視点から徹底したIT化を推進



ご清聴ありがとうございました

(参考) 四半期業績推移



1US\$	100円	110円	121円	122円	122円	115円	108円	102円	109円	114円
1EUR	134円	139円	134円	136円	133円	127円	122円	114円	118円	121円

※1・2 14/3期、15/3期は四半期平均。これ以降のスライドについても同様です。

(参考) 事業別売上高予想

(億円)

		17/3期 通期(実績)	18/3期(予想)			増減額	増減率
			上期	下期	通期		
機械器具部品	ステアリング	6,382	3,125	3,255	6,380	△ 2	△ 0.0%
	駆 動	1,482	640	650	1,290	△ 192	△ 13.0%
	軸 受	3,754	1,875	1,915	3,790	+ 35	+ 1.0%
	【 合 計 】	11,619	5,640	5,820	11,460	△ 159	△ 1.4%
工作機械他	工 作 機 械	1,425	750	770	1,520	+ 94	+ 6.6%
	そ の 他	138	10	10	20	△ 118	△ 85.5%
	【 合 計 】	1,563	760	780	1,540	△ 23	△ 1.5%
【売上高合計】		13,183	6,400	6,600	13,000	△ 183	△ 1.4%

(参考) 法人所在地別売上高予想

(億円)

	17/3期 通期(実績)	18/3期(予想)			増減額	増減率
		上期	下期	通期		
日本	5,493	2,615	2,790	5,405	△ 88	△ 1.6%
欧州	1,933	955	955	1,910	△ 23	△ 1.2%
北米	2,896	1,375	1,380	2,755	△ 141	△ 4.9%
豪亜 (インド含む)	1,353	675	685	1,360	+ 6	+ 0.5%
中国	1,276	650	660	1,310	+ 33	+ 2.6%
南米他	228	130	130	260	+ 31	+ 13.7%
【売上高合計】	13,183	6,400	6,600	13,000	△ 183	△ 1.4%

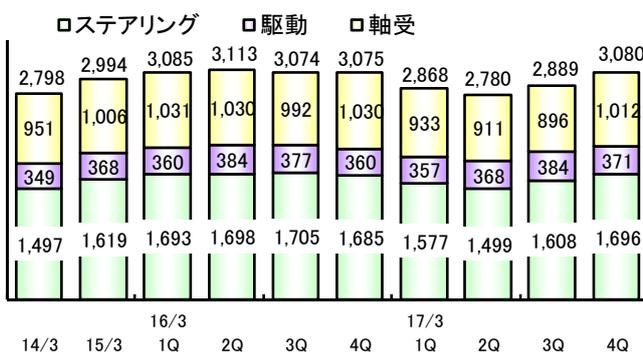
(参考) 事業別業績【機械器具部品】

(億円)

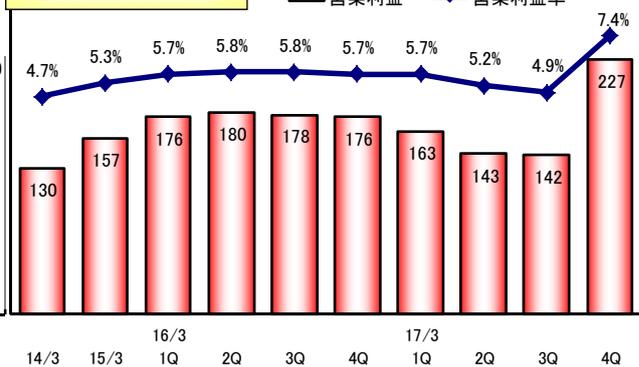
機械器具部品		16/3期	17/3期	増減額	増減率
ステアリング	売上高	6,783	6,382	△ 400	△ 5.9%
駆動	売上高	1,482	1,482	+ 0	+ 0.0%
軸受	売上高	4,085	3,754	△ 331	△ 8.1%
【合計】	売上高	12,351	11,619	△ 731	△ 5.9%
	営業利益	712	676	△ 35	△ 5.0%
	利益率	5.8%	5.8%		

※「消去」は省略しております。

売上高四半期推移



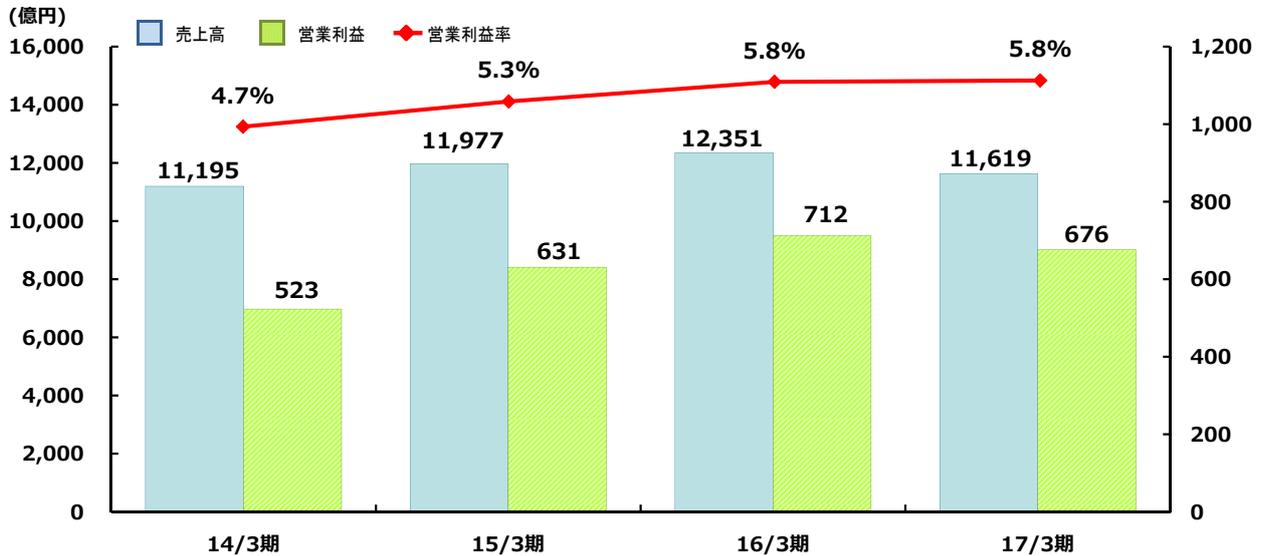
営業利益四半期推移



(参考) 事業別業績【機械器具部品】

(億円)

	16/3期	17/3期	増減
売上高	12,351	11,619	△ 731
営業利益	712	676	△ 35
利益率	5.8%	5.8%	



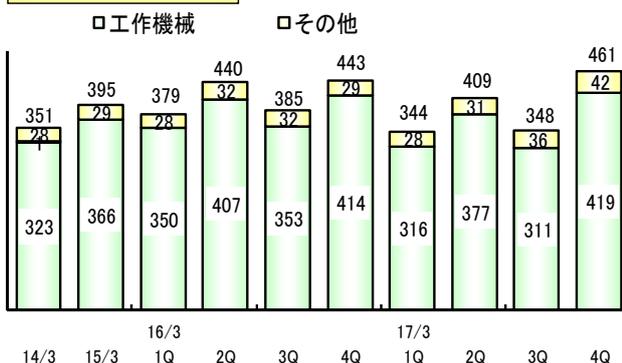
(参考) 事業別業績【工作機械 他】

(億円)

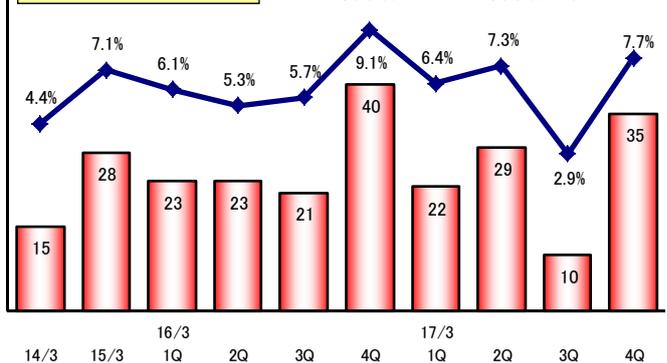
工作機械 他		16/3期	17/3期	増減額	増減率
工作機械	売上高	1,525	1,425	△ 100	△ 6.6%
その他	売上高	122	138	+ 15	+ 12.6%
【合計】	売上高	1,648	1,563	△ 84	△ 5.1%
	営業利益	108	97	△ 10	△ 9.9%
	利益率	6.6%	6.3%		

※「消去」は省略しております。

売上高四半期推移



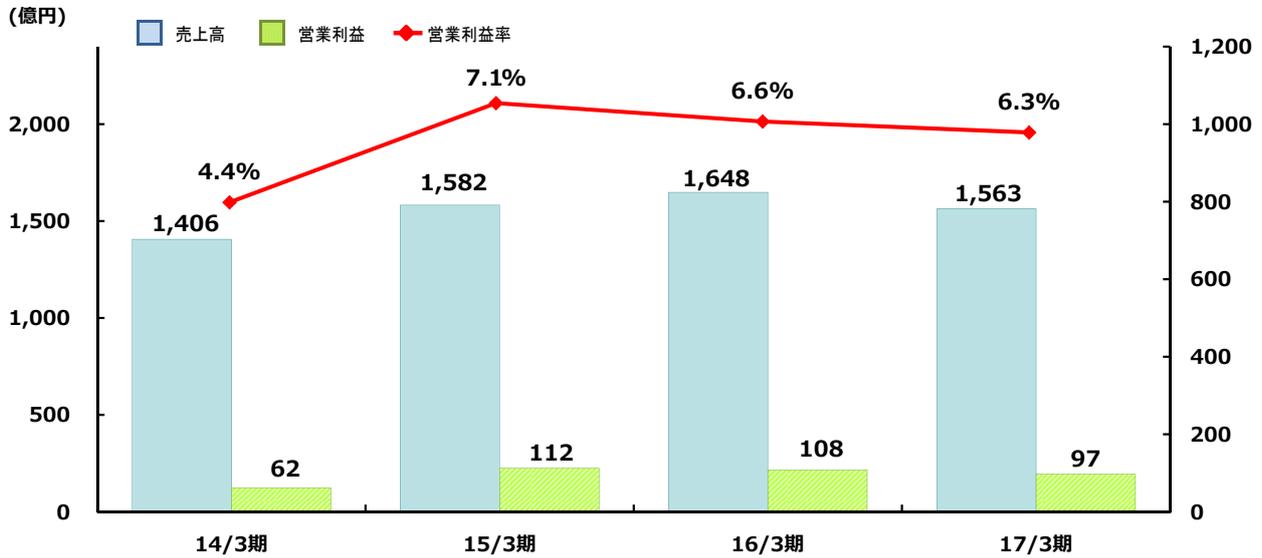
営業利益四半期推移



(参考) 事業別業績【工作機械 他】

(億円)

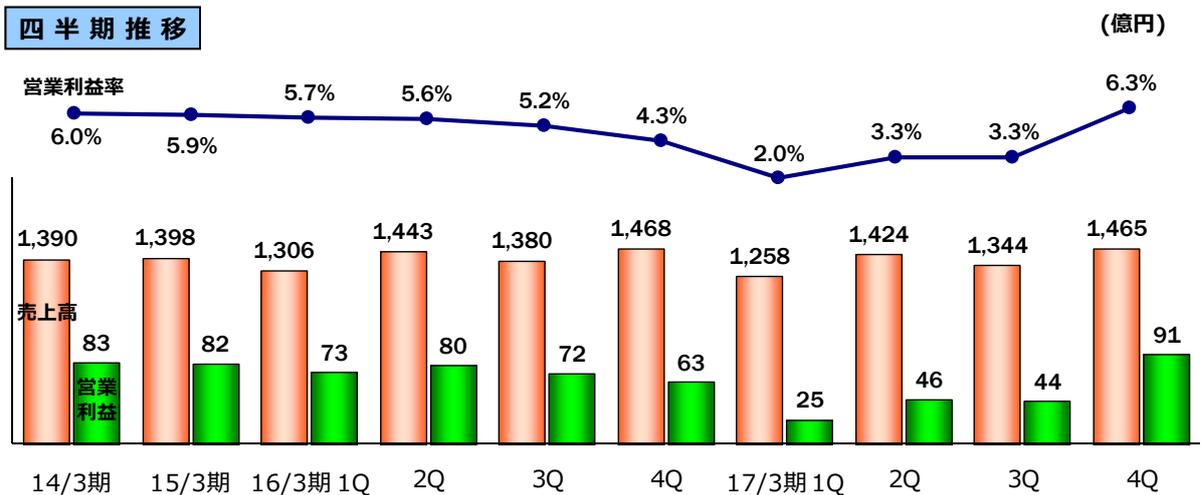
	16/3期	17/3期	増減
売上高	1,648	1,563	△ 84
営業利益	108	97	△ 10
利益率	6.6%	6.3%	



(参考) 法人所在地別業績【日本】

(億円)

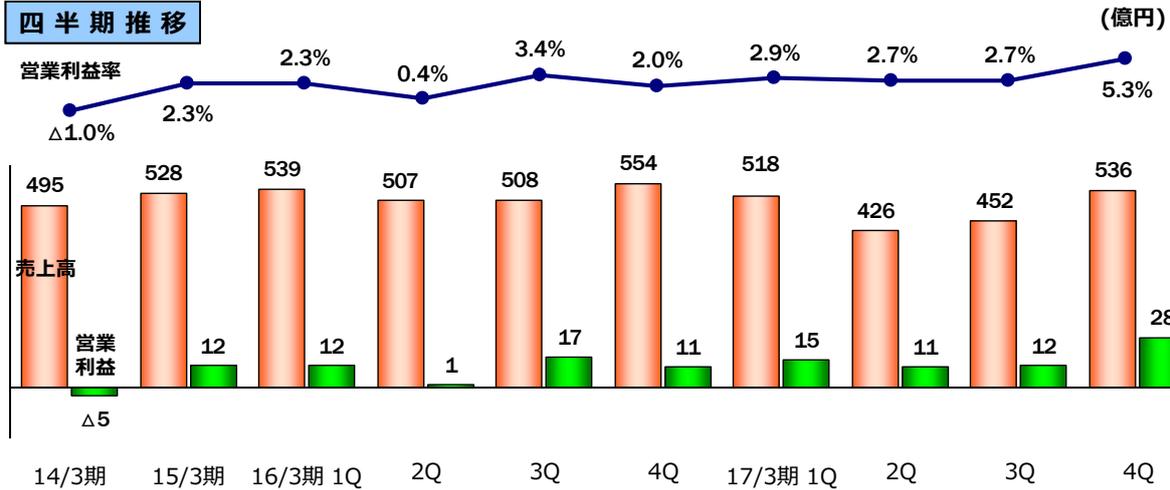
日 本	16/3期	17/3期	増 減 額	増 減 率
売上高	5,598	5,493	△ 104	△ 1.9%
営業利益	289	207	△ 81	△ 28.3%
利益率	5.2%	3.8%		



(参考) 法人所在地別業績【欧州】

欧 州	16/3期	17/3期	増 減 額	増 減 率
売上高	2,110	1,933	△ 176	△ 8.4%
営業利益	42	67	+ 25	+ 58.9%
利益率	2.0%	3.5%		

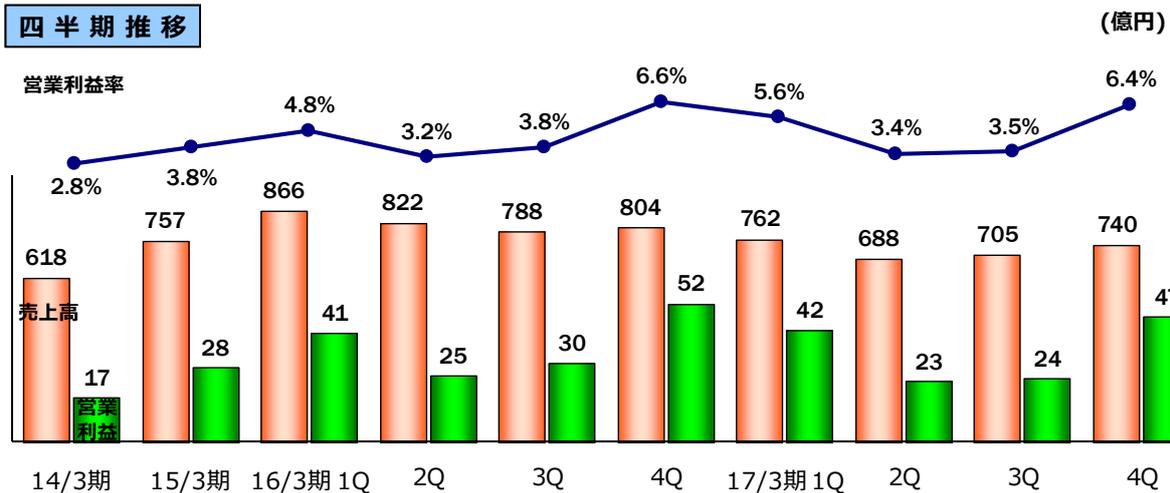
四半期推移



(参考) 法人所在地別業績【北米】

北 米	16/3期	17/3期	増 減 額	増 減 率
売上高	3,286	2,896	△ 389	△ 11.9%
営業利益	153	137	△ 15	△ 10.1%
利益率	4.7%	4.7%		

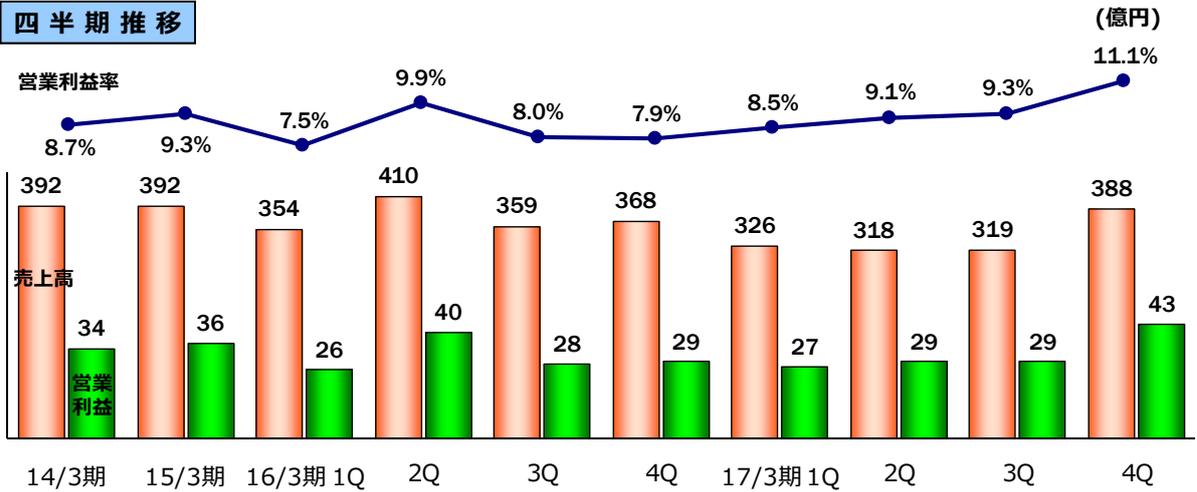
四半期推移



(参考) 法人所在地別業績【豪亜(インド含む)】

豪 亜 (インド含む)	16/3期	17/3期	増 減 額	増 減 率
売上高	1,493	1,353	△ 139	△ 9.3%
営業利益	125	129	+ 4	+ 3.9%
利益率	8.4%	9.6%		

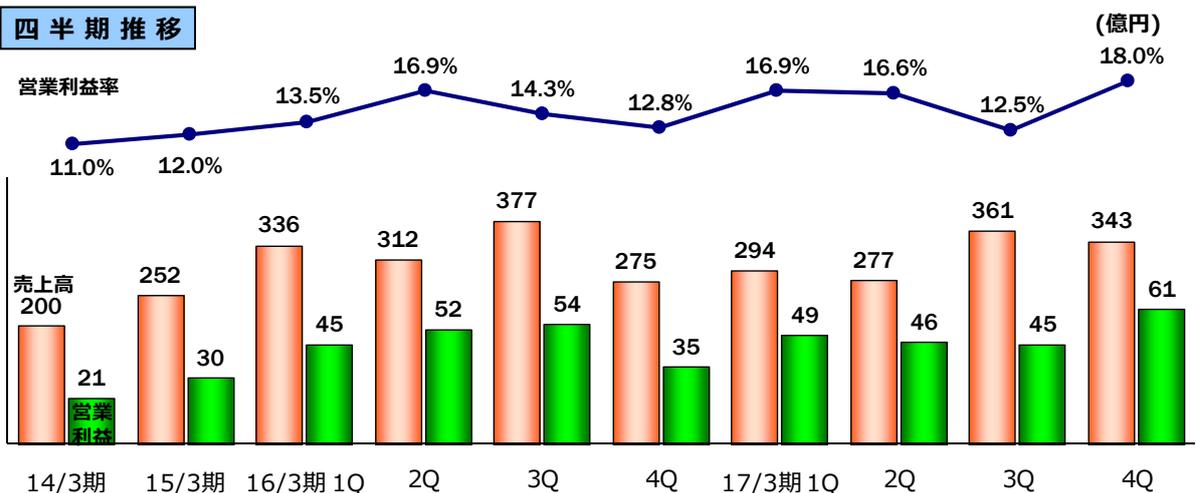
四半期推移



(参考) 法人所在地別業績【中国】

中 国	16/3期	17/3期	増 減 額	増 減 率
売上高	1,302	1,276	△ 25	△ 2.0%
営業利益	187	202	+ 14	+ 7.9%
利益率	14.4%	15.9%		

四半期推移



(参考) 法人所在地別業績【南米 他】

南米 他	16/3期	17/3期	増減額	増減率
売上高	209	228	+ 19	+ 9.1%
営業利益	△ 10	10	+ 20	-
利益率	△ 5.0%	4.5%		

四半期推移

